

回復期リハビリテーション病棟実績

《平成 29 年度実績》

入院患者に関して

当院の回復期リハビリテーション病棟は、リハビリテーションを目的に院内の急性期病棟からの転棟や他院・急性期病院からの紹介により入院されています。

平成 29 年度(平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)の月毎のリハビリテーション病棟への新規入院患者数は、合計 278 名でした(図 1 参照)。

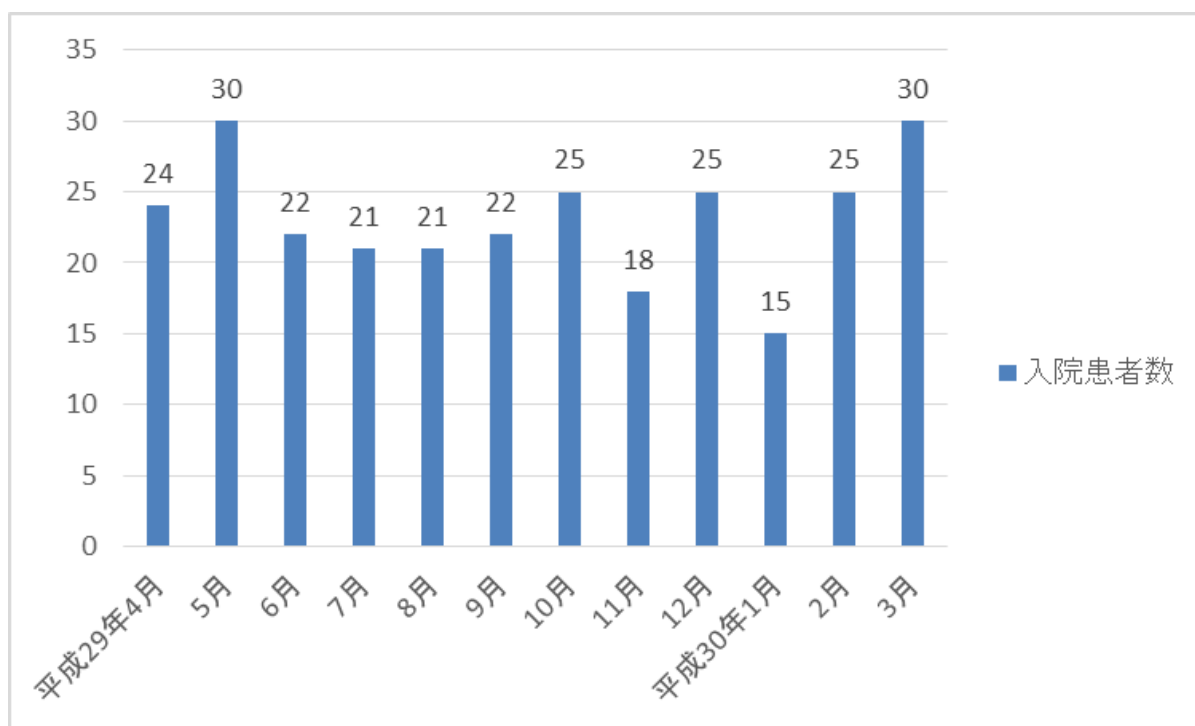


図 1 新規入院患者数

疾患内訳は、運動器疾患(大腿骨頸部骨折、人工膝関節・股関節置換術、脊柱圧迫骨折など)が 66.3%、脳血管障害(脳梗塞、脳出血など)が 33.4%、廃用症候群が 1.9%でした(図 2 参照)。

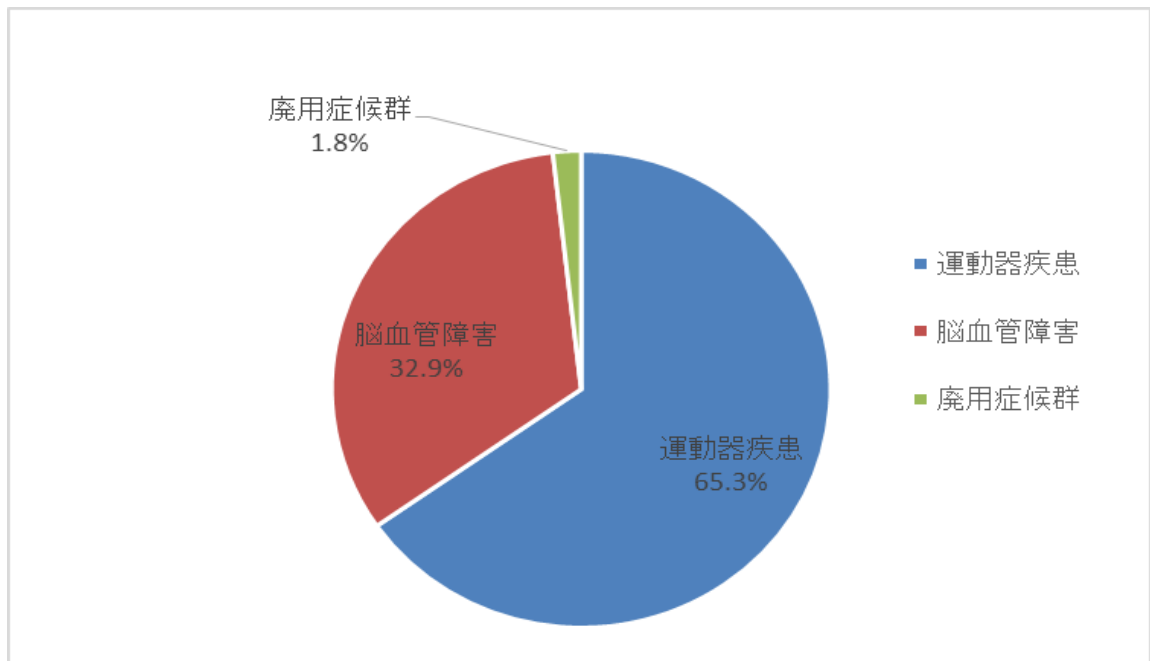


図2 疾患内訳

退院時の年齢は、運動器疾患は40～55歳:3名、55～70歳:16名、71～85歳:94名、85歳以上:72名で平均年齢は80.4歳でした。

脳血管障害は、40歳以下:2名、40～55歳:4名、55～70歳:13名、71～85歳:18名、85歳以上:5名で平均年齢は69.6歳でした(図3参照)。

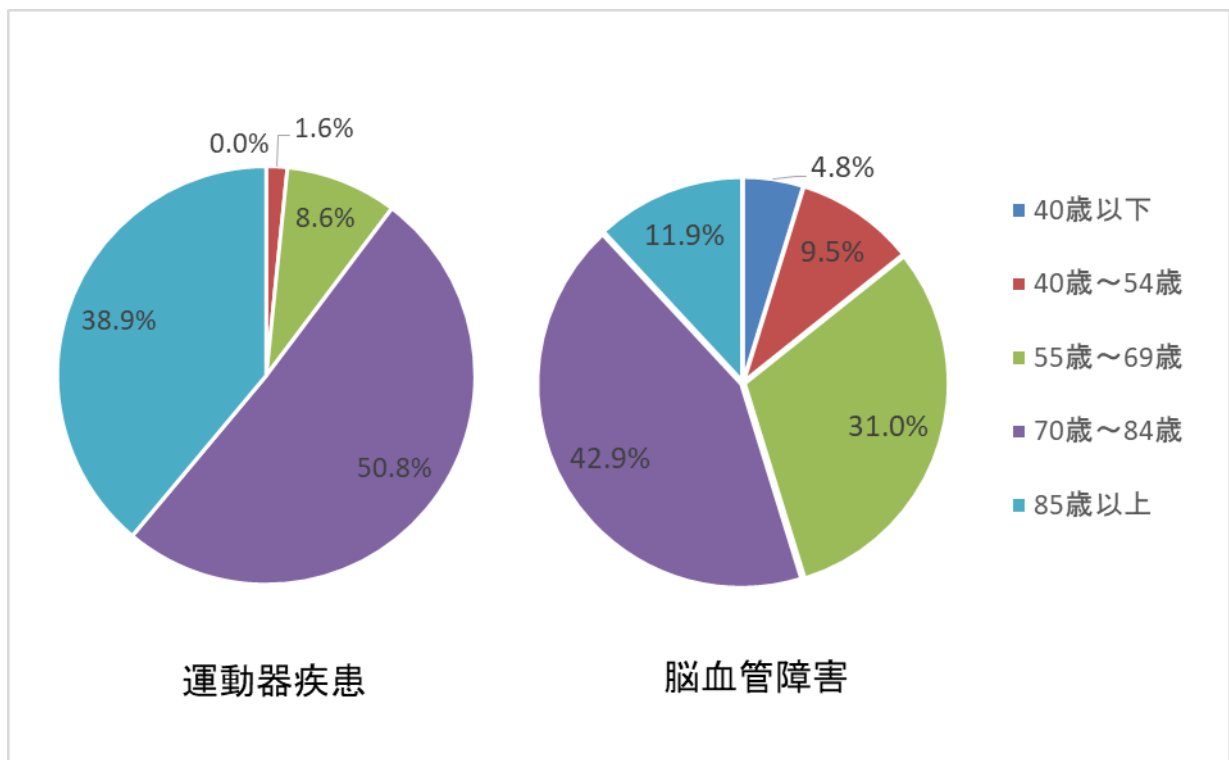


図3 退院時の年齢分布

リハビリテーション実績

運動器疾患、脳血管障害、廃用症候群の患者様に対する1日の平均リハビリテーション実施単位数は6.24単位(1単位=20分に相当)で、その内訳は、運動器疾患は6.00単位、脳血管疾患は6.76単位、廃用症候群は5.81単位でした(図4参照)。

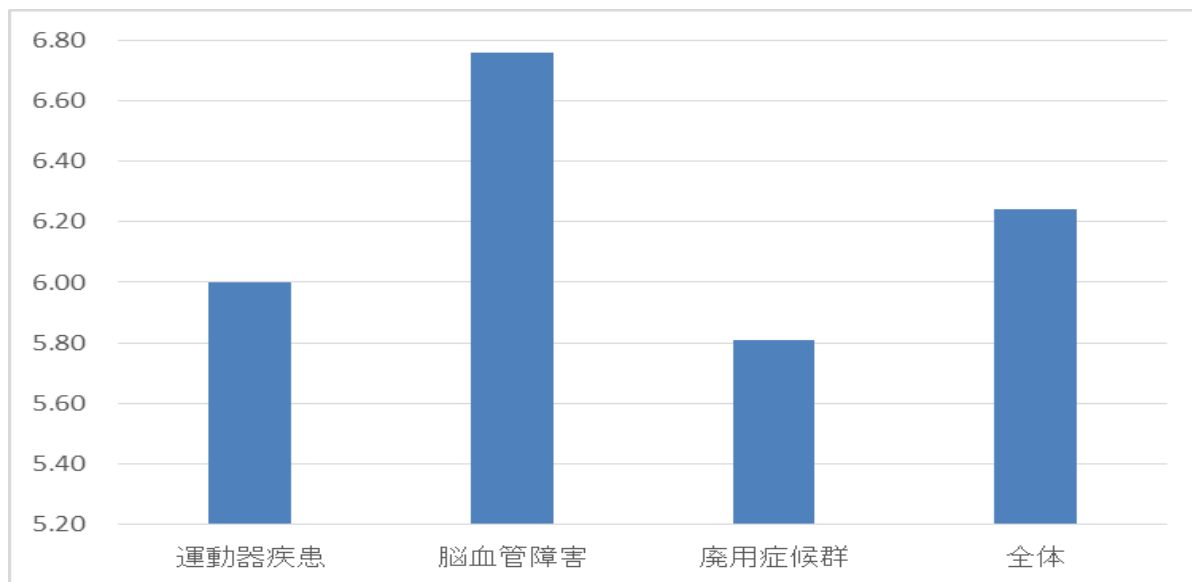


図4 平均リハビリ単位数

当院では患者様の日常生活動作能力の回復を「Functional Independence Measure(FIM)」という指標を用いて定期的に評価し、治療の目安としています。

FIMとは身の回りの動作・移動動作・認知能力を全18項目に分け、その介助量や自立度を7段階(1~7点)で指数化した評価です。

各項目に関して7点を完全自立、6点を修正自立、5点を監視(見守り)、4点を最小介助(75%以上実施)、3点を中等度介助(50%以上実施)、2点を最大介助(25%以上実施)、1点を全介助として評価します。点数が高いほど自立度が高いことを表します。合計点数は126点満点(最高126点、最低18点)です。

<入院時と退院時のFIMの変化>

入院時FIMは、運動器疾患では82.3点/126点、脳血管障害74.7点/126点でした。

退院時FIMは、運動器疾患では106.3点/126点、脳血管障害92.8点/126点に変化しています(図5参照)。

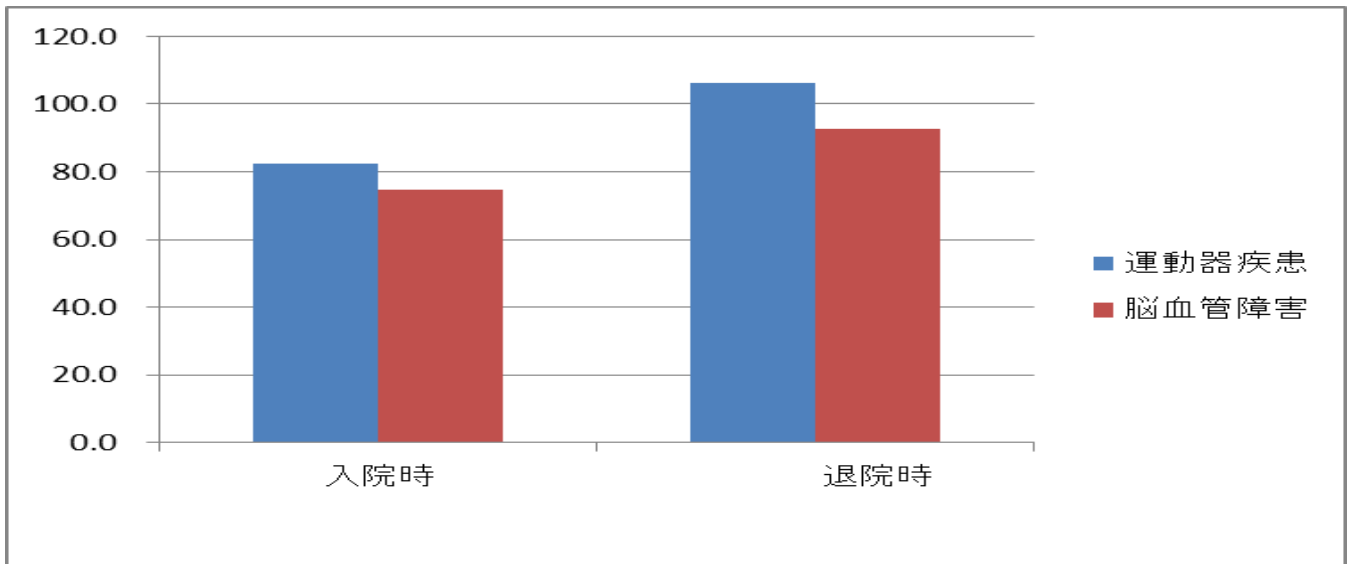


図5 FIMの変化

退院に関する実績

当院回復期リハビリテーション病棟の平均在院日数は67.0日でした。

当院の自宅復帰率※は80.1%(運動器疾患88.6%、脳血管障害71.5%)でした。

※一般的には「在宅復帰率」と言われ、退院先が自宅や自宅のような生活が可能な福祉施設(有料老人ホームやグループホーム、サービス付き高齢者住宅など)に退院された方の割合を示します。当院では、上記のような福祉施設への退院を含まず、直接自宅へ帰られた方のみを算出している為、「自宅復帰率」と表記しています。

運動器疾患の方は、161名/183名が自宅へと退院されました。

脳血管障害の方は28名/41名が同様に自宅へと退院されました(図6参照)。

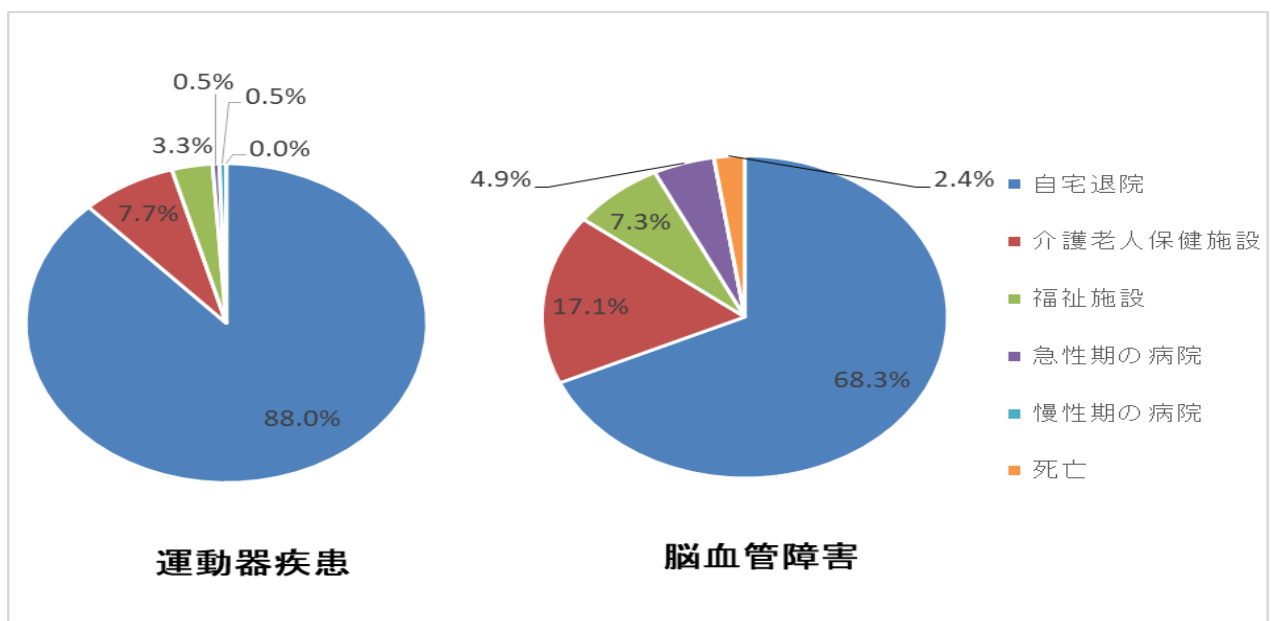


図6 退院先内訳